

令和 7 年度 活動報告

令和 7 年度 2 月 26 日

「知」の集積と活用[®]の場[®]産学官連携協議会事務局
(農林水産技術会議事務局 産学連携室)

農林水産省

「知」の集積と活用の場

- 「知」の集積と活用の場は、オランダのフードバレー（産学官が連携したイノベーション創発の取組）を参考に、農林水産・食品分野におけるオープンイノベーションを通じ、技術シーズの社会実装を推進するための仕組みとして、平成28年4月から活動を開始。



③ 研究コンソーシアム

- ・研究開発や実証、商品開発に取り組む共同体。
→累計**711**の研究課題が実施
※平成28年度からの累計、令和8年1月末時点

② 研究開発プラットフォーム

- ・共通のテーマ・課題に関心のある関係者が集い、自主的に研究開発プラットフォームを形成。
- ・プラットフォーム内で、研究課題の具体化、知財戦略・ビジネスモデルの策定に向けて議論。
→**173**のプラットフォームが活動中
※令和8年1月末時点
例) “農林水産業のスマート化”、“持続可能”、“健康に良い”、“輸出促進”、等。

① 産学官連携協議会

- ・産学連携や共創に関心のある会員が加入。
→会員数は**5,222** (法人団体・個人計)
※令和8年1月末時点
- ・会員向けに様々な支援を実施。
(セミナーやメルマガによる情報提供、成果のPR支援、社会実装に向けた伴走的支援)

当協議会HPはこちら



<成果展示会の開催>



<セミナー開催>



<メディア発信>

産学官連携協議会の体制について

- 産学官連携協議会は、会員の意見を集約する総会のほか、会員の意見や活動方針を総括する理事会、協議会の運営を実務的に支援する運営会議によって運営されている。



産学官連携協議会

事務局：産学連携室および業務委託先

会員管理、各種イベント・会議の企画運営、
Webサイト・メールマガジン運営、事業化等サポート

総会：会員全体

会員の意見を集約
理事選任決議、規約改正等

理事会：全理事

会員の意見や活動方針を
総括し意志決定する運営母体

運営会議：理事3名以上と産学連携室

協議会の運営を実務的に支援する

評価委員会：外部有識者

年度ごとの活動を評価。

理事会

役員任期2年（直近の改選R7年7月）

<会長>

松山 旭 キッコーマン株式会社
取締役常務執行役員 研究開発本部長

<副会長>

久間 和生 国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構 理事長

谷川 民生 国立研究開発法人 産業技術総合研究所
情報・人間工学領域インダストリアルCPS研究センター
研究センター長（主務）

東原 和成 全国農学系学部長会議 会長
東京大学大学院 農学生命科学研究科長

<理事>

稲垣 史則 株式会社島津製作所 エグゼクティブアドバイザー

田中 進 株式会社サラダボウル 代表取締役

長平 彰夫 東北大学 名誉教授
立命館大学大学院
テクノロジー・マネジメント研究科 教授

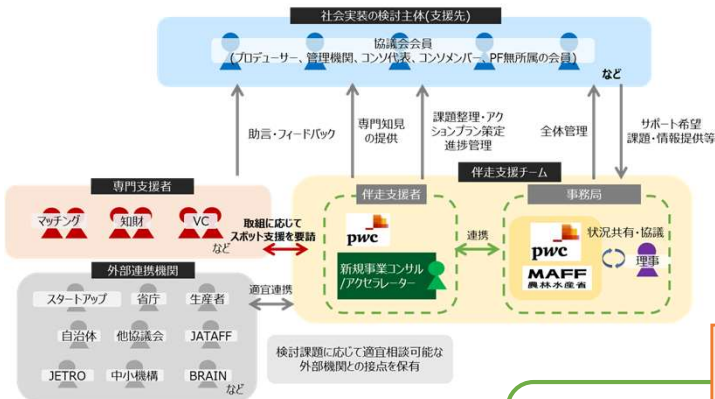
横田 修一 有限会社横田農場 代表取締役

産学官連携協議会の活動について

事業化等サポート

◇社会実装伴走支援

専門家によるメンタリング、連携先とのマッチング・商談、市場調査・分析、資料作成などを支援



成果のPR

◇展示会への出展

アグリビジネス創出フェア、JFフードサービスパートナーズ商談会、ニッポンフードシフト、FOOD展、大学見本市などの展示会に出展し、研究開発の成果をPR



◇成果報告会の開催

社会実装に向け優良活動を行っているプラットフォームの取組を発信

◇パンフレットへの成果事例掲載

協議会の紹介パンフレットに成果事例を掲載



協議会の運営

総会：会員への方針共有と理事改選等の決議
理事会：活動方針を協議

連携促進

◇ポスターセッション・セミナーの開催

会員・研究開発プラットフォーム・研究コンソーシアムが成果を共有・議論し、連携の可能性を検討する場を提供

◇他省庁等との連携イベントの開催

経済産業省、内閣府、NEDO、中小機構、特許庁等と連携し、ネットワーク促進につながる様々なイベントを開催



海外展開の支援

◇駐日大使館のとの連携

協議会内に69の駐日大使館が参加
海外展開を見据えた連携について意見交換を実施

◇JETROとの意見交換

スタートアップの海外展開支援などを実施するJETROとの意見交換を実施



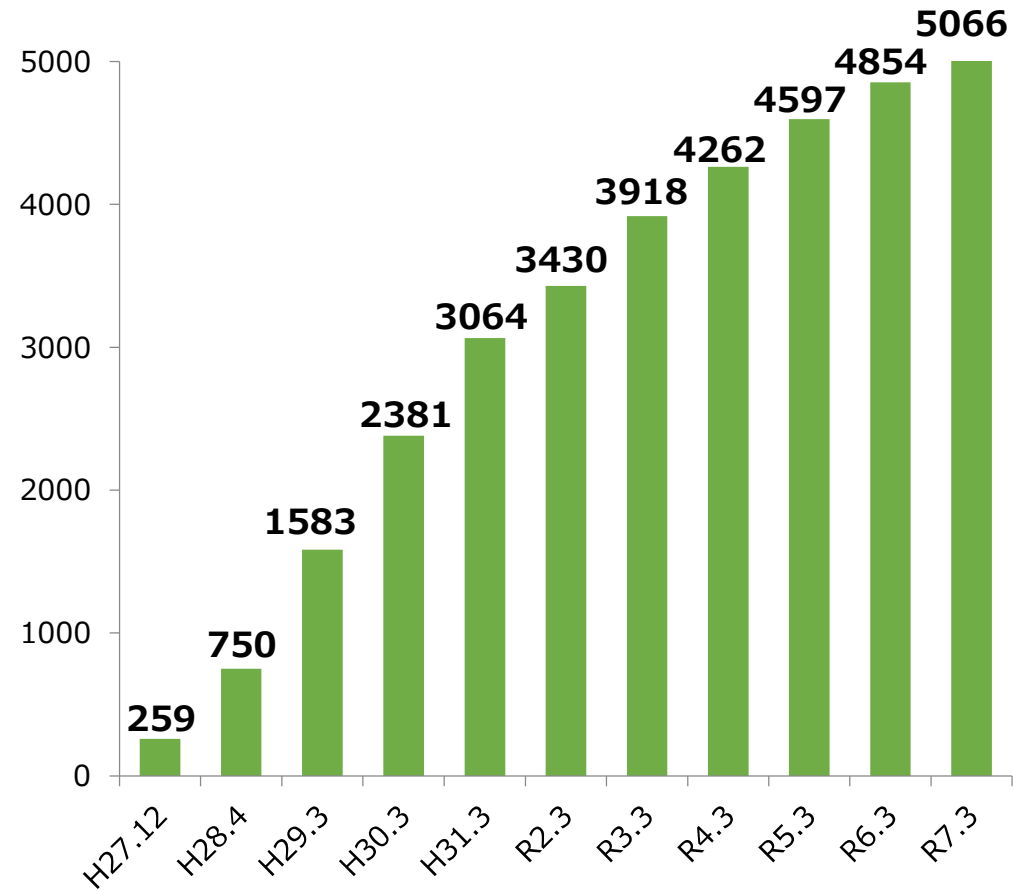
産学官連携協議会について

- 産学官連携協議会は、セミナー・ワークショップ等の相互交流の場を提供し、研究開発プラットフォームの形成やプロデューサー人材の育成を進めてきた
- 協議会には、農林水産業・食品産業だけでなく、電気・機械・化学・情報など多様な分野から**5,222**の会員が参画

【産学官連携協議会の会員構成】

区分	業種・組織	会員数
法人 団体	農林水産業・食品産業	837
	電機・精密機器製造業等	250
	化学工業等	212
	その他製造業等	376
	情報通信、専門・技術サービス業	623
	卸売・小売業	167
	金融機関	45
	その他サービス業(輸送、観光、メディア等)	125
特別	研究関係機関(大学、国研、公設試等)	504
	民間団体	327
	行政・自治体	105
	その他(大使館他)	72
個人	農林漁業者等	117
	研究者他	1462
海外会員		21
合計		5,222

【会員数の推移】



※令和8年1月末時点

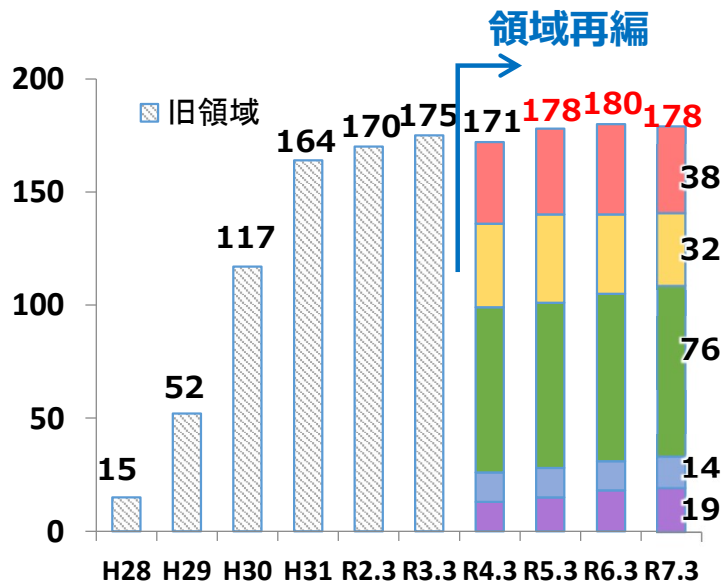
研究開発プラットフォームについて

- 令和8年1月末時点で**173**の研究開発プラットフォームが活動中（令和8年1月末時点）
- 第2期からは、研究開発プラットフォームを5つの「ターゲットとする産業領域」（カテゴリー）に分類



研究開発プラットフォーム

【研究開発プラットフォーム数の推移】



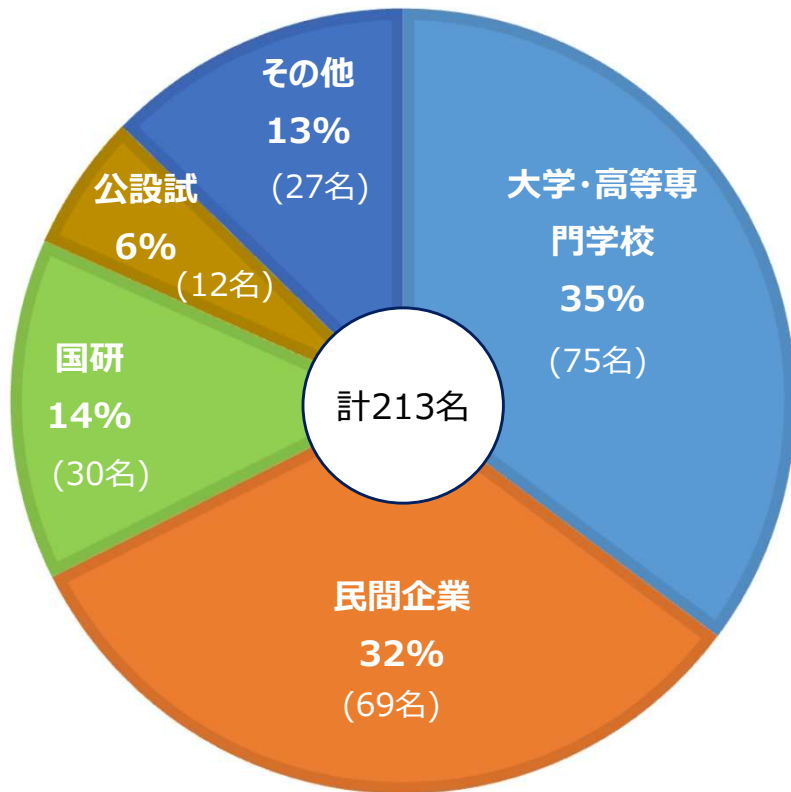
【研究開発プラットフォームのカテゴリー】

カテゴリー	主な取組の例
①スマート農林水産業及びスマートフードチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータ・AI等を活用したスマート育種技術 データに基づく家畜改良や飼養管理の高度化 生産から消費におけるスマート技術の開発・普及
②おいしくて健康にいい食づくり（産業基盤の強化に向けた連携促進）	<ul style="list-style-type: none"> 介護食品の開発やスマートミールの普及 食を通じた健康管理を支援するサービス 機能性食品の開発や健康維持・増進に関する科学的エビデンスの獲得・蓄積
③持続可能な農林水産業・食品産業（地球規模・地域の課題解決）	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動に対応した品種や栽培技術、農業資材の開発 化学農薬や肥料の使用を低減する生産技術の開発 地域の課題解決や産業創出
④農林水産物・食品の輸出促進、農林水産・食品技術の海外展開・国際共創	<ul style="list-style-type: none"> 海外ニーズに応える新商品の開発 農産物の鮮度保持技術の開発 アジアモンスーン地域向けの植物工場システムの開発
⑤バイオテクノロジーを活用した新事業創出	<ul style="list-style-type: none"> 代替肉の研究開発等のフードテック バイオマス発電やその排熱利用 ゲノム編集技術の活用 食品加工過程の副産物・廃棄物の利用促進

研究開発プラットフォームについて

- 研究開発プラットフォームには、計213名のプロデューサーが在籍
- プロデューサーを中心に、研究課題の具体化、知財戦略・ビジネスモデル策定、研究コンソーシアム形成等を実施

【プロデューサーの所属】



【研究開発プラットフォームの活動例】

- プロデューサー会議・総会等
→PFを運営する
- セミナー・勉強会の主催
→PFへの勧誘、成果の周知、研究のブラッシュアップのため、イベントを主催する
- サロン活動
→会員間交流を活性化し、マッチング促進やそのベースとなる信頼関係を構築する
- イベント・展示会等への出展
→PFのニーズ・シーズや成果をPRして、商品拡販や外部連携に繋げる

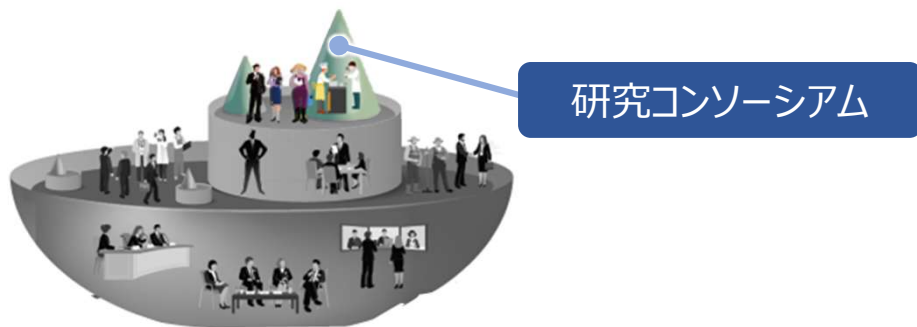
※令和8年1月末時点

※1つの研究開発プラットフォームに複数のプロデューサーを置いている場合は、それぞれ計数する。

※1人のプロデューサーが複数の研究開発プラットフォームのプロデューサーを兼任する場合は、それぞれ計数する。

研究コンソーシアムについて

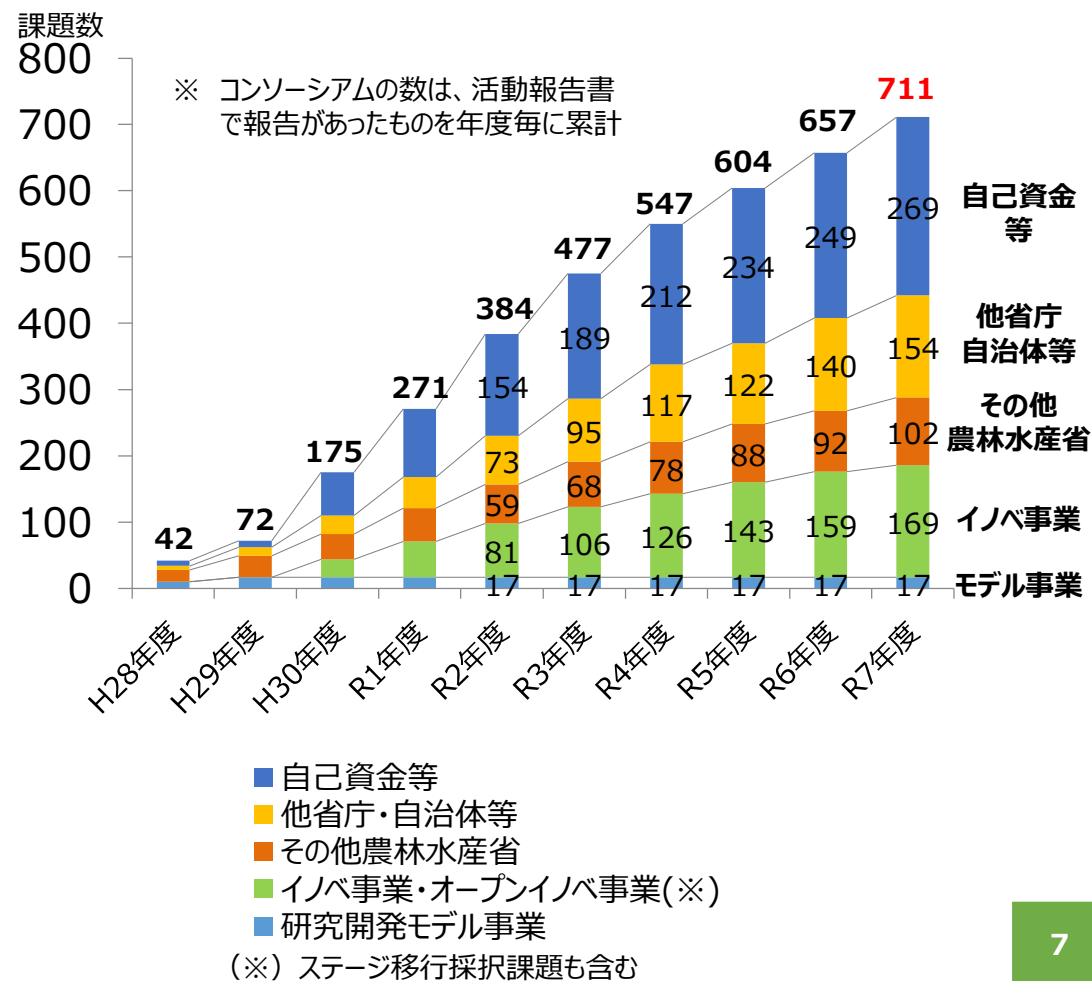
- 各研究開発プラットフォームの課題に対して、研究開発を推進する“研究コンソーシアム”が設置される。令和8年1月末時点までに、**711**の研究コンソーシアムが研究を実施又は課題採択。
- 「知」の集積と活用による研究開発モデル事業において、全17課題を採択（28～29年度）したほか、イノベーション創出強化研究推進事業、オープンイノベーション研究・実用化推進事業において、「知」の集積と活用場の研究コンソーシアムの提案から**169**課題を実施。他省庁を含む他の事業においても研究を実施。



【研究コンソーシアム集計（産業領域別）】

ターゲットとする産業領域	課題数
① スマート農林水産業及びスマートフードチェーン	109
② おいしくて健康によい食づくり (産業基盤の強化に向けた連携促進)	110
③ 持続可能な農林水産業・食品産業 (地球規模・地域の課題解決)	385
④ 農林水産物・食品の輸出促進、 農林水産・食品技術の海外展開・国際共創	39
⑤ バイオテクノロジーを活用した新事業創出	50
解散したP Fのコンソーシアム	18
合計	711

【外部資金等の活用状況】



令和7年度 活動一覽

会議・イベント名		2025年									2026年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 運営事業	総会	活動計画周知											
	理事会・運営会議		▲ 第1回運営会議 (5/23)		▲ 定時総会 (6/25)	▲ 第1回理事会 (7/31)		▲ 第2回理事会 (10/28)		▲ 第3回理事会 (1/29)		▲ 第5回理事会 (書面) (2/12)	▲
	評価委員会											▲ 評価委員会 (2/26)	
	新事業創出会議							▲ 新事業創出会議① (10/27)					▲ 新事業創出会議② (2/12)
2. 連携促進事業	セミナー				▲ セミナー① (8/4)				▲ セミナー② (11/26) アグリビジネス創出フェア連携				
	ネットワーキングイベント									▲ ①NEDO連携イベント (2/4)	▲ ②ポスターセッション (2/12)	▲ ③大使館連携イベント (2/12)	
3. 普及啓発事業	成果報告会											▲ 成果報告会 (2/12)	
4. 社会実装伴走支援事業			← 募集	← 選定				← 伴走支援				← 振り返り	
5. その他								← 次期構想検討					
6. 農林水産省関連イベント			▲ けいはんな万博 (6/13-14)				▲ JFフードパートナーズ商談会 (11/12)	▲ 大学見本市 (8/20)	▲ SIP連携イベント (10/1,9)	▲ アグリビジネス創出フェア (11/8-9)	▲ ニッポンフードシフトイベント (11/8-9)	▲ YOXOフェス (1/31-2/1)	▲ 近畿経産局連携イベント (2/2)
		▲ 中部経産局連携イベント (4/24)	▲ テーマ別座談会① (7/18)				▲ テーマ別座談会② (9/24)		▲ 関東経産局連携イベント (1/20)	▲ テーマ別座談会③ (1/14)			

- 定時総会では、年間活動報告・活動計画を確認
- 事業化・社会実装への意識醸成や研究開発方針の検討に資する政策動向・技術トレンド等の情報提供を目的として、セミナー、新事業創出会議を開催

定時総会 (R7年6月25日)

【開催概要】

- ・ 令和6年度活動報告
- ・ 令和7年度活動計画
- ・ 今後の協議会のあり方について（会員向けアンケート実施）

オンラインセミナー (R7年8月4日)

【開催概要】

- ・ オンラインセミナー「スタートアップ、VCから見る農林水産業の可能性と共創のカチ」を開催
- ・ 参加者には農林水産研究イノベーション戦略のポイントを紹介
- ・ 官民からの情報提供、事例共有、パネルディスカッションを通じた将来ビジョンの共有により、社会実装、事業化の加速に貢献
- ・ 約200名が参加し、イノベーション戦略、VCおよびスタートアップとの連携に関する高い関心が伺えた



新事業創出会議 (R7年10月27日)

【開催概要】

- ・ 日本人の主食であるコメ栽培に焦点を当て、技術者と生産者を交えた「コメ栽培の未来を語る！生産者×技術者ディスカッションイベント」を開催
- ・ 今後の人手不足や、異常気象・気候変動等の課題感を有する生産者に対し、関連技術を紹介
- ・ 講演後には登壇者を含む技術者と生産者を交えて、全員参加型のディスカッションを実施
- ・ 技術者3名が技術を紹介し、生産者7名が参加
- ・ 今後の稲作の課題に関して、技術による解決策など活発な議論が行われた



アジェンダ

「コメ栽培の未来を語る！日本のコメ栽培の課題とあるべき姿」
横田農場 横田 修一 氏

技術紹介「初冬直播の技術トレンド」
岩手大学 農学部 下野 裕之 氏

技術紹介「乾田直播の技術トレンド」
農研機構 東北農業研究センター 松波 寿典 氏

講演「技術紹介（気候変動対策の取組み）」
農研機構 農業環境研究部門 西森 基貴 氏

水稻栽培のあるべき姿のディスカッション
「議題：生産性向上に向けた栽培方法について」
「議題：気候変動対策について」

- アグリビジネス創出フェア2025内で、メインステージセミナーを実施。農業現場への技術導入から消費者提供価値まで具体事例を交えながら、パネルディスカッション形式で議論を実施
- 知財セミナーでは、企業×大学×国研間における契約や知的財産の取り扱いなど、オープンイノベーションを行う上での課題解決に資する内容の講演を実施

アグリビジネス創出フェア2025 (R7年11月26日)

【開催概要】

- ・ 「農業現場における技術の社会実装と消費者の求める価値提供を語る！」をテーマに研究・技術開発から生産、流通の第一線で活躍される方々によるパネルディスカッション
- ・ 技術を製品価値に落とし込む背景や今後の市場などが議論され、約100名の参加者が聴講

<登壇者>

- ・ サラダボウル 田中 進 代表取締役社長
- ・ イトヨーカドー (株) 西山 英樹 執行役員
- ・ 農研機構 田中 健一 統括執行役 兼 事業開発部長
- ・ PwCコンサルティング 松原 隆介 パートナー (ファシリテーター)



知財セミナー (R8年1月14日)

【開催概要】

- ・ 下記のプログラムをハイブリッドで実施。
- 1. オープンイノベーションにおける契約、知財の取扱いに関する講演
講演者：弁護士法人内田・鮫島法律事務所
永島 太郎 パートナー
丸山 真幸 シニアアソシエイト
- 2. 特許庁より支援策の紹介
- 3. 各会員やプラットフォームが抱える課題に対するワークショップ
- 4. 弁護士先生への相談会

- ・ 協議会内外で産学官連携の知的財産・契約に課題を抱えている、40名の方が参加
- ・ 講演者からは知的財産の基本的な考え方から、複数者での連携時の契約の注意点などを提供
- ・ 実際に参加者が抱えている具体的な課題を、参加者にも共有しながら、その解決策を弁護士先生に相談し、大変有意義なセミナーだったとの声が多数

知的財産・契約の課題解決セミナー 知の集積と活用の場

「知」の集積と活用の場では、複数の会員同士（法人や個人）がプラットフォーム、コンソーシアムを形成し、社会実装に向けて取組んでいます。企業×大学×国研間における契約やプラットフォーム内での知的財産の取扱いなど、オープンイノベーションを行う上での課題を解決します！

イベント日時：2026年1月14日（水） 10:00～12:00
場所：農林水産省 6階 会議室（〒100-8508）
プログラム1 10:00～11:00（ハイブリッド）
講演「オープンイノベーションにおける契約、知的財産の取扱い」
講師：弁護士法人内田・鮫島法律事務所
永島 太郎 パートナー
丸山 真幸 シニアアソシエイト

プログラム2 11:00～12:00（現地のめ）
各会員やプラットフォームが抱える課題に対するワークショップ
契約・知的財産に関する相談会

登録締め切り：1月13日（火）12時
登録フォーム：<https://forms.office.com/r/C9k44mTKW>

Q1. 本セミナーの満足度をお答えください。

N=23



●満足 ●普通 ●不満

- 「知」の集積と活用の中 産学官連携協議会の事業PRのため、複数の展示会に出展
- オープンイノベーションに関心のある企業、大学や、技術シーズを有効活用したい機関などがブースを訪れ、協議会の活用方法や事例を参考にし、会員として参画

けいはんな万博
(R7年 6月13～14日)

- 万博期間中のWell-Being Festivalに出展
- けいはんな都市近郊の大学、民間企業が多数参加



けいはんな万博
2025

シンボルキャラクター
「みらるる」

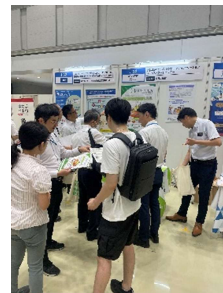


大学見本市
(R7年 8月20～21日)

- JSTの主催する大学等機関から創出された研究成果の社会実装を促進する展示会に出展
- 技術シーズを活用したい民間企業や社会実装を考えている大学研究者が多数訪問



引用：大学見本市 開催結果報告書



FOOD展
(R7年10月15～17日)

- 食品製造（安全衛生対策や加工機器など）に関わる民間企業が多数出展
- 食品製造でのオープンイノベーションに関心のある企業が訪問



- ポスターセッションでは、各研究開発プラットフォーム等がそれぞれの取組・成果を発表し、更なる連携の可能性を議論
- 成果報告会では、優れた成果を創出している研究開発プラットフォームや、積極的な取組により今後の成果が期待される研究開発プラットフォームを表彰

ポスターセッション&成果報告会 (R8年2月12日)

【ポスターセッションの開催概要】

イベント名：「知」の集積と活用の中 ポスターセッション2025

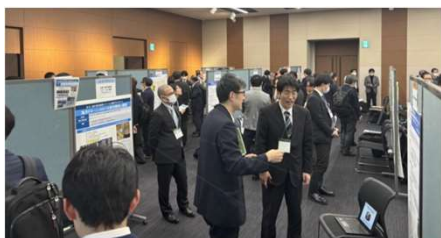
～知が集う！食の未来に向けた産学官の共創～

日時：令和8年2月12日（木）

形式：対面（一部ハイブリッド開催）

場所：大崎ブライツコアホール

- 出展者・来場者合わせて約160名が参加
- 64件のポスターを展示（特設サイトからも閲覧可能）
- 成果報告会を同時開催し、優良なPF活動や社会実装伴走支援の成果を紹介



【成果報告会の開催概要】

- 「会員の意欲向上」、「有用な活動事例の共有」、「非会員に対する協議会の周知」を目的として開催
- 優れた成果を創出しているPF（オープンイノベーション大賞）や、積極的な取組により今後の成果が期待されるPF（奨励賞）を表彰
- 令和7年度は以下の2件を表彰

〈「知」の集積と活用の中 オープンイノベーション大賞〉

○「東北農業のイノベーション技術創造」研究開発プラットフォーム
農研機構東北農業研究センターが主体となり、社会実装を進めるための研究機関や企業が多数参画している。水稻の乾田直播栽培技術の普及や、コムギ、ダイズ等の新品種の開発など、社会的インパクトの大きな社会実装事例を多数創出している。

〈奨励賞〉

○次世代育種技術研究開発プラットフォーム
種子・種苗に関わる関係者が広く集まり、遺伝資源の有効活用や次世代育種技術を活用した新品種開発などに関する議論や社会実装に向けた取組が活発に行われている。

- 研究開発プラットフォームの成果の商品化・事業化を支援するため、NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2025にて、一般消費者を相手にしたPR・製品販売を希望する2つのプラットフォームが出展
- 食品メーカー・バイヤーへの展開を対象としたJFフードサービスパートナーズ商談会に2つのプラットフォームが出展

NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2025 (R7年11月8～9日)

様々な「食」や「農」に関わるテーマで、生産者・事業者・消費者・Z世代を対象としたマルシェ

○メロン機能性向上研究開発PF

(株)大和コンピューターが開発した養液栽培技術で収穫したメロンを販売

○食のエピゲノミクス研究開発PF

早大発ベンチャーUssio Lab.(株)が瀬戸内の海底湧海水からおいしく減塩できる「アミノ酸ハイブリッド型食塩」関連製品やヘーゼルナッツを販売



JFフードサービスパートナーズ商談会 (R7年11月12日)

外食や小売等のバイヤー向けの商談会として、業務用食材、資材メーカーや全国の生産者が約200社出展

○サボテン等多肉植物の潜在能力発掘と活用推進PF

海外では食されているサボテンの“野菜化”を目指し、メニュー提案やサンプルワークを通じて普及に取り組む

○水産増養殖産業イノベーション創出PF

食味の優れた雌ウナギのさらなる普及に取り組む



食用サボテン
(中部大学・綿半トレーディング(株))



メスウナギ
(東海生研)

- 一般消費者に向けて、PFの成果をPRするため、YOXO FESTIVAL 2026への出展機会を創出
- 近畿経済産業局主催のイベントでは、優良な活動を行う研究開発プラットフォームが活動成果を発表
- より広く活動成果を発信するため、最新の成果事例を掲載したパンフレットを作成

YOXO FESTIVAL 2026 (R8年1月31日～2月1日)

- 企業・スタートアップ・アカデミア・個人といった多彩なイノベーター・クリエイターが一堂に会し、最先端技術や実証実験中のアイデア・ソリューションを出展・発表する、横浜未来機構主催のイベント
- 当協議会より「セルフケア食開発プラットフォーム」が出展した。



○セルフケア食開発プラットフォーム

信州大学発スタートアップの(株)ウェルナスより、一般の来場者に向けて、個別栄養最適食のアプリ「NEWTRISH」や機能性表示ナスサプリメント「えみふる」を紹介した。



外部ピッチイベントでの優良活動事例発表

- 近畿経済産業局主催のピッチイベントに「熱中症予防対策商品による地域産業創出PFが登壇し、「知」の集積と活用での取り組みをPR。
- PFから製品化した食品の展示を行った。



パンフレットでの成果事例紹介

- 協議会のパンフレットに、優良な成果事例を掲載。
- 展示会やイベントなどで、パンフレットを配布し、PR。



- 経済産業省 関東経済産業局と連携して、農林水産・食品分野におけるさらなるオープンイノベーションの促進を目的とした、『農林水産・食品分野オープンイノベーション・チャレンジピッチ』を開催
- 大手企業が発信したニーズに対して、課題解決に資する技術シーズを有した中小企業等が提案

農林水産・食品分野オープンイノベーション・チャレンジピッチ (R8年1月20日)

【開催概要】

開催日：令和8年1月20日（火）
 会場：Tokyo Innovation Base (TiB)
 主催者：農林水産省、経済産業省関東経済産業局、中小機構関東本部
 登壇者：大手食品企業等 6社登壇
 参加者：210人（現地76人、オンライン134人）

キューピー株式会社、TOPPAN株式会社、日油株式会社、三菱ケミカル株式会社、株式会社吉野家ホールディングス、レンゴー株式会社

【過去登壇企業とマッチング数】

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
ニーズ数	14件	23件	10件	21件
シーズ提案数	175件	175件	147件	185件
商談数	37件	37件	45件	32件



- 中部経済産業局の『MEET UP CHUBU』と連携し、実証圏場の紹介やアグリテック分野での連携を目的としたピッチイベントを実施
- 近畿経済産業局と『「関西共創の森」DAYS』や京都大学と連携し、アクアポニックスの社会実装をテーマにしたディスカッションイベントを実施

中部経済産業局との連携イベント (R7年4月24日)

【開催概要】

- 中部経済産業局と連携し、アグリテック～実証フィールド×未来の農林水産業をつくる～をテーマとしたネットワーキングをハイブリットで開催
- 「知」の集積と活用の中プラットフォーム、会員が登壇し、成果や実施しているプロジェクトを共有
- 中部地方の企業や大学、自治体等が現地50名、オンライン198名参加し、中部地方の機械・自動車部品メーカーなど、異分野からも多数参加
- 現場では、食と農に関心のある方々がネットワーキングでも活発な議論を行っていた
- 後日、登壇者と参加者による提案プロジェクトの勉強会など開催され、新たな連携促進に繋がっている

「知」の集積と活用の中からの登壇：

- SDGsに貢献する新たな植物保護技術研究開発プラットフォーム
- NTTテクノクロス株式会社
- ヤンマーホールディングス株式会社



主催：中部経済産業局、
中部経済連合会

共催：農林水産省

協力：豊橋市



近畿経済産業局、京都大学との連携イベント (R8年2月2日)

【開催概要】

- 近畿経済産業局や京都大学などと連携し、「アクアポニックスの社会実装」をテーマにしたショートピッチ・ディスカッションイベントを開催
- 「知」の集積と活用の中から、植物工場や陸上養殖の技術開発、社会実装を目指すアカデミア、大手企業、スタートアップなど62名が参加
- 参加者がワークショップの中で自分たちのアイデアを持ち寄り、議論し発表することで参加者間のコミュニケーションを活性化

「知」の集積と活用の中からの登壇 大阪公立大学、旭化成株式会社



共催：「知」の集積と活用の中、近畿経産局、京都大学、京都信用金庫

- 内閣府の戦略的イノベーション創出プログラム（SIP）と共催で、SIP研究課題の社会実装にむけて協業先をマッチングするイベントを開催
- NEDOによる、衛星データ×農林水産業の技術開発コンテスト「NEDO Challenge, Satellite Data」と連携し、異分野連携を促進するイベントを開催

令和7年度SIP「豊かな食」研究成果活用ピッチイベント
(R7年10月1日, 9日)



【開催概要】

- SIPで研究開発された「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」の各研究成果に対し、「知」の集積と活用場の連携希望先とのマッチングイベントを開催
- 大豆の育種・栽培、肥料の国内循環、次世代養殖技術の社会実装に関心のある民間企業が多数参加し、現地では協業希望社とのネットワーキングを実施



【第一弾】

- 課題A 植物性タンパク質(大豆)の育種基盤構築と栽培技術確立
- ・ 農業栽培支援システムおよびAPIの提案
- 課題B 肥料の国内循環利用システム構築
- ・ AIを活用した高機能堆肥化装置
 - ・ 地域資源の循環利用システム
 - ・ プルシアンブルー型錯体を活用した肥料成分の回収
- 参加者：現地・オンライン 計125名（農業機械、資材企業、地方自治体、大学など）

【第二弾】

- 課題C 動物性タンパク質(水産物)の次世代養殖システム構築
- ・ 生産性向上のためのリアルタイム飼育管理システムの開発
 - ・ 養殖拡大のための大規模養殖技術の高度化
 - ・ 魚粉依存を軽減する魚類養殖支援技術の開発
- 参加者：現地・オンライン 計93名（機械企業、水産・養殖企業、金融機関など）

NEDO連携イベント
(R8年2月4日)



【開催概要】

- NEDOが主催する衛星データ×農林水産業の技術開発コンテスト「NEDO Challenge, Satellite Data」と連携し、ネットワーキングイベントを開催
- 「知」の集積と活用場の会員と、衛星データ活用に関連する異分野技術シーズとの連携につながるノウハウやマッチング機会を提供
- 現地・オンラインで157名が参加



アジェンダ	登壇者(敬称略)
NEDO Challenge, Satellite Dataご紹介	NEDO航空宇宙部 酒井 謙二
「知」の集積と活用場の産学官連携協議会の紹介	農林水産省 産学連携室 新津 泰亮
特別講演① 「農林水産分野における地球観測衛星データの活用」	JAXA 大吉 慶
特別講演②「農林水産分野におけるオープンイノベーションの先進事例 社会実装・事業化セミナー」	産業総合研究所 谷川 民生
特別講演③「知」の集積と活用場の産学官連携協議会プラットフォーム紹介（「農業分野におけるリモートセンシング技術研究開発PF」）	RESTEC 奥村 俊夫

- 省内フードテック官民協議会および外部の協議会と共催で、食品保存技術、ロボティクス技術に関わるスタートアップピッチイベントを開催し、関心企業とのネットワーキングを実施。

食品保存技術セミナー (R7年7月18日)

【開催概要】

イベント名：
"食"の未来を拓く保存テクノロジー
～ロス削減から商圏拡大まで～



- ・ 食品ロス削減と商圏拡大・輸出拡大に欠かせない「食品保存技術」について、スタートアップ4社が登壇。

- ・ 登壇者が今後の食品ロス削減について、自社や業界の課題についてパネルディスカッションで議論。

- ・ イベント後の交流会では同課題に関心の高い企業、研究機関同士が積極的な交流。



参加者：66名（企業、VCなど）

登壇者：

- 食品ロスゼロテクノロジー協議会/
（株）インターホールディングス 山口 翔 氏
- （株）リコー 未来デザインセンター 植平 将嵩 氏
- （株）アバントス 桶田 一夫 氏
- Cool Innovation Co., Ltd. Dan Chang 氏

フードアグリ×ロボティクスセミナー (R7年9月24日)

【開催概要】

イベント名：
Agri Food Tech Open Innovation Salon



- ・ アグリフード分野と異業種ディープテックに関わる、スタートアップ4社が登壇。

- ・ 最新の技術情報やスタートアップの今後の展望に関わる情報を提供。

- ・ ワークショップでは各テーブルでアグリフード分野におけるロボット技術普及と課題について議論し全体での共有する場を設けることで、白熱した議論を展開。



参加者：23名（企業、大学、VCなど）

登壇者：

- 大阪公立大学大学院工学研究科 福田 弘和 氏
- （株）ロボティクスセーリングラボ 二瓶 泰範 氏
- エアロセンス（株） 菱沼 倫彦 氏
- TechMagic（株） 白木 裕士 氏

- 在京大使館に「知」の集積と活用の際の取組を周知。令和7年12月までに69大使館が入会。
- PFの海外展開を支援するため、大使館やJETROと意見交換を行い、連携イベントについて協議。

海外展開に向けた意見交換

<在京大使館等との意見交換>

各国大使館や海外産学官連携機関とオープンイノベーションの取組に関して意見交換を実施

【意見交換を実施した在京大使館】
オランダ、ドイツ、オーストラリア

<JETROとの意見交換>

- ・協議会会員が活用可能な海外展開支援策などに関して、活用方法などに関して意見交換
- ・協議会のイベント内でJETROから各種支援策の共有を実施していく

大使館連携イベント

<イスラエル大使館 FoodTech イベント>

イスラエルのフードテック関連のスタートアップがピッチを行うイベントにて「知」の集積と活用の際協議会をPR
(R7年2月18)



<デンマーク大使館連携イベント>

- ・デンマーク大使館より、畜産・水産分野に関わる技術開発トレンドやイノベーションの現状を共有
- ・同分野において海外展開を考えるプラットフォームから成果を共有
(R8年3月実施予定)

令和7年度年間イベントスケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月
<p>中部経産局 ニーズピッチ</p>		<p>定時総会</p> <p>けいはんな万博</p>	<p>テーマ別イベント (食品保存技術)</p>	<p>セミナー (VC、SU)</p> <p>大学見本市</p>	<p>テーマ別イベント (ロボティクス技術)</p> <p>社会実装伴走支援</p>
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>新事業創出会議①</p> <p>SIP連携イベント</p> <p>FOOD展</p> <p>社会実装伴走支援</p>	<p>JFフード 商談会</p> <p>ニッポンフードシフト フェス</p> <p>アグリビジネス創出 フェア セミナー</p>		<p>セミナー (知財・契約)</p> <p>関東経産局 OIピッチ</p> <p>横浜YOXOフェス</p>	<p>NEDO連携イベント</p> <p>近畿経産局 ディスカッションイベント</p> <p>成果報告会 & ポスターセッション</p>	<p>大使館連携イベント</p> <p>新事業創出会議②</p>



: ネットワークイベント



: 情報発信イベント



: セミナー

- 伴走支援者（協議会事務局など）と専属専門支援者（大手企業出身者など）とで伴走支援チームを構成し、協議会会員に対して伴走支援を実施
- 支援内容に応じて、適宜外部機関からのスポットでの助言も受けられるようにコーディネート
- 専門家によるメンタリング、連携先とのマッチング・商談、市場調査・分析、資料作成などの支援を実施

